

令和 2 年 6 月 10 日現在

機関番号：32670

研究種目：基盤研究(C) (一般)

研究期間：2016～2019

課題番号：16K04196

研究課題名(和文) 20世紀前半の東アジア社会福祉の学术交流史に関する研究及び研究方法論の構築

研究課題名(英文) The research and establishment of research methodology for academic history of East Asian social welfare in the first half of the 20th century.

研究代表者

沈 潔 (SHEN, Jie)

日本女子大学・人間社会学部・教授

研究者番号：20305808

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 3,000,000円

研究成果の概要(和文)：本研究は既刊各種の復刻版資料集を活かしながら、20世紀初頭～1940年代に刊行及び個人所蔵された写真集、スケッチなどビジュアル史料を加え、従来の社会福祉史研究方法である史料批判の限界を補う作業を試みた。

一方、歴史的経緯から示された当時の学术交流と政策移転のプロセス、共有された価値観について、に関して、冷戦後の東アジア諸国の学术交流において継承された部分が多かったが、に関しては歴史問題の認識や輿論の影響など、継承されなかった部分が多いことが明らかにされた。これらの成果は日本語と中国語の雑誌や国際会議で発表された。

研究成果の学術的意義や社会的意義

20世紀前半では、東アジア地域の福祉政策の受容と学術的交流は、時代の制限と政策の枠組みをはみ出した活発な側面があった。これまで、さまざまな政治的原因でそのメカニズムの解明が遅れていて、関連する研究もほとんど着手されていない状態であった。本研究は、日本語資料と中国語資料及びビジュアル史料を照らして史料批判の作業を行い、その史実を解明することに努力した。その上、オーラルリサーチという福祉政策研究手法を併用することによって、現況の実証研究と歴史研究を分断している学術研究の状況を改善する可能性とその実現するためのロードマップを示すことを試みた。

研究成果の概要(英文)：This research makes use of various reprinted material collections which were already published, and visual historical materials such as photo-books and sketches published and privately held in the early 20th century to the 1940s to make up the limit of the criticism of historical materials, which is a conventional social welfare history research method.

On the other hand, the following were clarified as follows: (1) the process of academic exchange and policy transfer, and (2) shared values, which were shown from the historical background. Although, (1) many parts were inherited in the academic exchanges of East Asian countries after the Cold War, (2) There were many parts that were not inherited, such as the recognition of historical issues and the influence of the theory of debates.

These achievements were published in Japanese and Chinese magazines and international conferences.

研究分野：社会福祉学

キーワード：社会福祉 学术交流史 東アジア 社会政策 日本 中国

様式 C - 19、F - 19 - 1、Z - 19 (共通)

1. 研究開始当初の背景

研究代表者が社会事業史学会のメンバーらと共に、20世紀前半における東アジア社会福祉の文献資料の発掘に力を注いできた。復刻版資料集の編纂に関わった『中国占領地の社会調査資料集』、『植民地社会事業関係資料集』(台湾編と満州編)、『東アジアカトリック社会福祉史資料集』などが刊行された。しかし、資料集が充分活用されなかった。当該領域の研究に相応しい研究方法が確立されてないことが主な原因と思われる。単なる地域間の交流史を主眼におくのみならず、東アジア福祉政策研究の基盤づくりという視野を持つ研究方法論の構築は、重要な課題であると考えられるようになった。

今まで東アジア福祉領域の学術研究は、現況の実証研究と歴史研究を分断している状況が続いている。こうした状況を打開しないかぎり、展開されつつあるグローバルな社会福祉との対話が難しくなってくる。歴史的な経緯から今の東アジア地域が抱えている課題に対して有益な示唆を提供できるのか、その追究が不可欠である。しかし、こうした視座からの研究は極めて少ない。

研究代表者は、2013年度(1年間に限り)に公益財団法人JFE21世紀財団の「アジア歴史研究助成」を受けて、中国社会科学院社会政策研究センターや台湾中央研究院近代史研究所の研究者らと協働作業で、東アジアにおける福祉政策の受容について研究を行ってきた。本研究は、その共同研究の中で発見された緊急かつ重要な課題でもある。共同研究者の間では信頼関係及び認識を共有しており、これまでの研究成果を踏まえつつ、より深められる研究成果が期待できる。

2. 研究の目的

20世紀初頭～1940年代までの間、中国語で紹介された福祉政策に関連する書籍のうち日本語のものは約3割を占めていた。また、労使、福祉を担当する官僚のうち日本留学経験者も数多くいた。日本の植民地とされた台湾や韓国では、こうした学術的な往来がより濃厚であった。その交流は、暴力的なプロセスを伴う一方、リベラルなプロセスもあった。複雑な歴史的経緯から示された有益な学術交流と政策移転のプロセス、共有された価値観を解明することが本研究の目的である。

これまでの社会福祉領域における東アジア関連の研究では、現況の実証研究と歴史研究を分断している状況が続いていた。歴史的な経緯と現実的な課題を複眼的に捉え、共通性のある東アジア福祉政策の認識の理論的枠組及びその研究方法論を提示することも研究目的の一つである。

3. 研究の方法

本研究は上記目的の実現のために、基本的に以下の3つの方法をとった。

基本的に既刊された各種の復刻版資料集を基礎資料として、史料批判の方法論を活かしながら20世紀初頭から1940年代に刊行及び個人所蔵された写真集、スケッチというビジュアル史料を加え、従来の社会福祉史研究方法である史料批判の限界を補う作業を試みた。

従来の歴史研究方法である史料批判の限界を補うため、福祉政策研究に活用されたオーラルリサーチ研究方法を導入する。具体的には、東アジア福祉政策のスペシャリストに対する聞き取り調査を行い、当時の専門家らの交流プロセスを検証する。専門組織や研究機関とのワークショップによって当時の組織間の交流アプローチの妥当性を検証する。

散在した中国語の関連資料を発掘すると共に、日本語史料と中国語史料を照らして史料批判の作業を行い、認識の理論的枠組を明示する。

4. 研究成果

研究成果として明らかになったのは、以下の数点である。

(1) 日本語から中国語やハングルに訳された代表的専門書・法律の史実を整理し、それらの専門書の普及、そしてその普及に対する批判と抵抗があったのか、さらに現在の福祉政策とのつながりなどを追究した。それを検証するために、2017年11月18日、「社会政策史の日中研究の動向と手法について」をテーマにして、中国・湖南師範大学1名、中国・鄭州大学3名の研究者を迎え、日本女子大学目白キャンパスでワークショップを開催し、研究方法の検討と研究成果の発表をおこなった。

(2) 発掘された中国語及び日本語の資料に照らしながら史料検証及び史料批判の作業を行い、数名のスペシャリストに対するオーラルリサーチなどのプロセスを通じて、20世紀前半における日本と中国の間に行き来する社会福祉の学術交流及び政策移転の概況について、解明することができた。特に日本の社会事業や社会政策分野を代表する学者の生江孝之、海野幸徳、小河滋次郎らの学説や理論は、日本に留学し中国に帰国した留学生らの努力によって、中国に伝播し、教育及び政策策定の場において、生かされた史実を解明することができた。よって、本課題の仮説である専門家の中立性、政策移転の公益性の視点を、以上の史料分析によって立証できたことが大きな成果である。この作業の集大成として、2018年11月24日に、日本女子大学目白キャンパスにおいて、「交流と交差：20世紀前半の東アジア社会福祉学術史」をテーマとして、日本と中国の研究者・大学院生等の参加によって国際シンポジウムを開催した。首都圏を中心とする40余名の研究者と大学院生等が出席した。参加者らが、日本社会福祉政策のアジア地域への伝播に当たって、専門家が中立性を持ちつづける動因と特徴等を検討し、研究方法の方向性・有効性についても議論した。

(3) 1930～1940 年代の台湾・中国本土・朝鮮半島では、社会事業行政及び法令が整備されつつある時期であった。それぞれの地域にいずれも社会局や社会福祉司などの行政機関が設けられた。また、日本社会事業協会は、東亜社会事業連盟を結成するため、積極的に諸地域に進出した。そして、日本の大学セツルメントも、諸地域に大きな影響力を及んでいた。これらの歴史的な経緯を全体的に捉え、理論的な仕組みの中で検証することが本研究の重要な作業である。その実現のために、2016 年 12 月に国際会議参加のため、来日した台湾中央研究院近代史研究所の学者を迎え、少人数のワークショップを行い、台湾における史料所蔵や史料研究の動向について、双方で意見交換を行った。さらに、2017 年 12 月に、研究代表者と分担者は、台湾中央研究院近代史研究所が主催する「西方経験與近代中日交流的思想連鎖」国際会議に参加し、「中國社會政策萌芽期的日本因素」と「遠藤隆吉と中国 ある昭和漢学者・社会学者の思想と方法」について学会報告を行った。2018 年 12 月 5 日、研究代表者と分担者はまた、台湾・中央研究院近代史研究所主催「西方経験與近代中日交流的思想連鎖」のシンポジウムに参加し、海外の学者と共に近代社会学の理論、概念及び応用方法のアジア地域への伝播に当たって、伝統的学問との間の齟齬・調和・相互解釈のプロセスと特徴を検討した。

(4) 現実的な課題の対応として、以上の作業によって明らかにされた知見は共通性のある東アジア福祉政策の構築に当たって、その共通の理論的基盤と価値観を明確にして、その上、学者らの交流の原則、組織間の連携と協働、政策の移転と評価について、その具体策を検討することは本研究プロジェクトの研究方法の一つである。研究代表者は、2017 年 11 月に中国の南開大学で中国社会政策専門委員会が開催するシンポジウムに参加し、「中国社会政策本土化の経路探索：1930 年代を中心に」について報告した。2019 年 2 月に北京で開催された社会保障学会大会において、研究代表者は「日本社会保障財政の課題分析」を題とした研究発表を行い、歴史と現実の角度から政策移転の共益性の可能性と限界を検討し、良い反響を及ぼした。

(5) 既刊各種の復刻版資料集を活かしながら、20 世紀初頭から 1940 年代に刊行及び個人所蔵された写真集、スケッチというビジュアル史料を加え、従来の社会福祉史研究方法である史料批判の限界を補う作業を試みた。一方、歴史的経緯から示された当時の 学术交流と政策移転のプロセス、 共有された価値観について、 に関して、冷戦後の東アジア諸国の学术交流において継承された部分が多かったが、 に関しては歴史問題の認識や輿論の影響など、継承されなかった部分が多いことが明らかにされた。この成果は日本語と中国語の雑誌や国際会議で発表された。

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計18件（うち査読付論文 4件 / うち国際共著 0件 / うちオープンアクセス 0件）

1. 著者名 沈潔	4. 巻 NO3010
2. 論文標題 中国社会保障の頂層設計改革 福祉の国家化傾向 (中国語)	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 週刊社会保障	6. 最初と最後の頁 48-53
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 沈潔	4. 巻 第6期
2. 論文標題 社会政策的な生活視角 (中国語)	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 中国社会科学文摘	6. 最初と最後の頁 62-64
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 趙軍	4. 巻 第2号
2. 論文標題 植民地・戦争と語学教育、その歴史を論じることの意味	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 新世紀人文学論究	6. 最初と最後の頁 17-18
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 沈潔	4. 巻 総59号
2. 論文標題 中国における社会事業理論の受容についての再考 1920年代～1940年代を中心に	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 社会福祉	6. 最初と最後の頁 61-71
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 沈潔	4. 巻 総28
2. 論文標題 經濟轉型期中国的社会保障及其特徵	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 社会保障研究	6. 最初と最後の頁 1-8
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 沈潔	4. 巻 第3期
2. 論文標題 社会政策中的“生活”視角	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 中国社会科学内部文稿	6. 最初と最後の頁 170-180
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 沈潔	4. 巻 第13巻
2. 論文標題 “美好生活”的社会政策意義 研究生生活問題	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 中国公共政策評論	6. 最初と最後の頁 1-11
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 沈潔	4. 巻 第12期
2. 論文標題 經濟轉型期社会政策的新課題	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 当代社会政策研究	6. 最初と最後の頁 21-33
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 沈潔	4. 巻 総NO.2948
2. 論文標題 中国介護保険制度の構想を読み取る	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 週刊社会保障	6. 最初と最後の頁 50-55
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 沈潔	4. 巻 NO319
2. 論文標題 中国「適度普惠型」福祉の形成と課題	5. 発行年 2016年
3. 雑誌名 DIO連合総研	6. 最初と最後の頁 8-11
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 沈潔	4. 巻 NO27
2. 論文標題 中国における介護保険制度の創設を巡って	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 日本女子大学人間社会学部紀要	6. 最初と最後の頁 14-22
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 沈潔	4. 巻 NO2
2. 論文標題 浅談“生活型”社会政策	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 社会政策研究(中国)	6. 最初と最後の頁 53-60
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 趙軍	4. 巻 第57巻第2号
2. 論文標題 西洋背景下の遠藤隆吉の中国哲学史研究 西洋経験と近代日中交流における思想連鎖の一側面	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 千葉商大紀要	6. 最初と最後の頁 41-57
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

〔学会発表〕 計21件 (うち招待講演 10件 / うち国際学会 17件)

1. 発表者名 沈潔
2. 発表標題 「美好生活與参与型社会政策的設計與評價」(中国語)
3. 学会等名 社会政策国際論壇(招待講演)(国際学会)
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 趙軍
2. 発表標題 「当漢学家成為西学傳人 遠藤隆吉的漢学、西学著述與中国」(中国語)
3. 学会等名 台湾・中央研究院近代史研究所主催「西方経験與近代日中交流的思想連鎖」第二年度ワークショップ(台北)(国際学会)
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 沈潔
2. 発表標題 「『中国占領地における社会調査』の編集にあたって」(中国語)
3. 学会等名 日本上海史研究会・上海社会科学院歴史研究所現代史研究室共催「中日学者中日関係史交流会」(国際学会)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 趙軍
2. 発表標題 「写真集中的“滿洲”與日本帝国 以 北滿砂金地写真集 為中心」(中国語)
3. 学会等名 日本上海史研究会・上海社会科学院歴史研究所現代史研究室共催「中日学者中日關係史交流会」(國際学会)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 沈潔
2. 発表標題 中国社会政策本土化の経路探索：1930年代を中心に
3. 学会等名 中国・南開大学中国社会政策専門委員会主催シンポジウム(國際学会)
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 沈潔
2. 発表標題 中國社會政策萌芽期的日本因素
3. 学会等名 台湾中央研究院近代史研究所主催する「西方經驗與近代中日交流的思想連鎖」國際會議(招待講演)(國際学会)
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 沈潔
2. 発表標題 日本地域社会の自治：理論と実践
3. 学会等名 中国社会学会2017年次大会(中国・上海大学)(國際学会)
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 沈潔
2. 発表標題 生活型社会政策の理論思考
3. 学会等名 中国社会科学院社会政策研究中心主催研究会（招待講演）（国際学会）
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 沈潔
2. 発表標題 中国社会政策本土化の模索：1930年代を中心に
3. 学会等名 中国社会政策専門委員会シンポジウム（中国・南開大学）（国際学会）
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 趙軍
2. 発表標題 遠藤隆吉と中国 ある昭和漢学者・社会学者の思想と方法
3. 学会等名 台湾中央研究院近代史研究所主催する「西方經驗與近代中日交流的思想連鎖」国際会議（招待講演）（国際学会）
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 沈潔
2. 発表標題 「中国占領地の社会事業調査」に関する史料の発掘と研究
3. 学会等名 「和解への道：日中戦争の再検討」国際シンポジウム（国際学会）
4. 発表年 2016年

1. 発表者名 趙軍
2. 発表標題 中西功的中国研究與中国革命（中国語）
3. 学会等名 北京大学歴史学系・北京大学大学院主催「百年中国的跨学科対話」シンポジウム
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 趙軍
2. 発表標題 従東亜同文書院調査報告看1920-21年華北飢饉の災害調査和国内外救災活動（中国語）
3. 学会等名 湖南師範大学・湖南省慈善總會主催する「回顧與前瞻：中国慈善史研究的理論與实践国際シンポジウム」
4. 発表年 2019年

〔図書〕 計4件

1. 著者名 沈潔解説、一番ヶ瀬康子著	4. 発行年 2018年
2. 出版社 華中師範大学出版社	5. 総ページ数 171
3. 書名 沈潔導読 社会福祉基礎理論導読	

1. 著者名 趙 軍	4. 発行年 2018年
2. 出版社 ミネルヴァ書房	5. 総ページ数 376
3. 書名 中国における大アジア主義	

1. 著者名 沈潔・趙軍・佐藤仁史	4. 発行年 2018年
2. 出版社 有限会社 近現代史料刊行会	5. 総ページ数 第1巻から第6巻まで総6巻
3. 書名 <戦前・戦中期アジア研究資料> 写真記録「満洲」生活の記憶	

1. 著者名 沈潔・趙軍・佐藤仁史	4. 発行年 2018年
2. 出版社 有限会社 近現代史料刊行会	5. 総ページ数 別冊、総85頁
3. 書名 <戦前・戦中期アジア研究資料> 写真記録「満洲」生活の記憶	

〔産業財産権〕

〔その他〕

-

6. 研究組織

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究分担者	趙 軍 (ZHAO JUN) (30301831)	千葉商科大学・商経学部・教授 (32504)	